

八度目の正月を迎えて

三守 國夫

寿 皆様におかれましては、穏やかな新春を迎えることと思います。

私の実兄（七十九歳）も皆様と一緒に八度目のお正月を迎えられました事、大変ありがたく思っております。ただ、今年の正月は昨年までの固形食の祝い膳（お雑煮、おせち）とは違い、刻み食です。一番食べる事が楽しみだった兄がどんな気持ちで飲食したのか、兄の心境を思うと辛くなります。

特に、昨年退院してからは、食事・おやつも刻み食で、心身とも弱体化が進み、私の問い掛けにも無表情か、寝ている状態が多くなりました。それでも何度も声かけをすると、虚ろな眼差しで迷惑そうな顔をします。私の顔を忘れたのか？それとも認知症の発症？…と心配をしています。

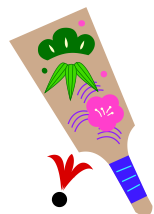
誰にでも年々、加齢と共に心身の

衰えは避けられません。兄は、幼少から複数の障害（現在一級）があり、介助無くては自己管理出来ません。私を頼りにしていますが、高齢の私自身が気力、体力の衰えを感じ期待に添えない状態です。

こちらにお世話になる前は、他県の施設（ケアハウス）に六年間入所していました。ヘルパーの方に週五日介助をお願いし、私も月に一〜三回、車で片道四時間を運転し、面会に通っていました。この状況が長く続くと私の家庭が崩壊すると焦る気持ちで近郊の施設を探していましたところ、宝塚ちどりの募集を知り応募、幸い入所することが出来ました。今でも覚えています。面談に来られた職員の方が「心配しなくてもいいですよ。晩年まで介護します。」の言葉。家族にとって、どんなに救われた事か、感謝してもしきれません。

兄も、入所当時は前施設と宝塚ちどりにおいての介助の違いに戸惑う事もありました。また、慣れた担当介護士の方の部署異動時は、平常心を保てず、心身共に不安定な時もありましたが、慣れるにつれ館内を歩行器で散歩し、笑顔も出るようになり安心しました。

五〜六年前までは、面会に行くことが。風呂に入った。風呂引くなよ。と私に得意になって話をしてくれ、年々発音が悪くなり聞き取りにくくなってきました。理解した顔をすると喜んでいました。特に、好物のアンパン、菓子などを持参した時は上機嫌。反面、自分の意思に反する言葉などには依怙地（いこじ）になる。時には、「何でそこまで面倒を…」と、思う事が多々ありましたが、今、私の家族が平穏に暮らせているのは、兄が身代わりになってくれているのでは、と想う時があります。これ以上、症状が悪化しない様に願うばかりです。



意思疎通ができない兄に、看護師・介護士の方も随分泣かされ、立腹されたこともあったと思います。

お仕事とはいえ、身内でも出来ない介助を日々親身になってお世話をして頂き、感謝しております。また、心身の状態など詳細に連絡して下さいますので、私達家族にとっては安心です。つつい甘んじ、ずぼらして面会回数が少なくなりました。

職員の方も、施設内の勉強会、外部での研修会と自己啓発に努め、個々のご利用者に対応したサービスマス向上に努力されている姿勢が、面会の都度感じられ、本当にいい施設に入所出来ました事、家族みな大変喜んでおります。今後とも、よろしくお願い致します。

※今回は宝塚ちどりの開設当初からの施設をご存じである三守様にご寄稿をお願いしました。

ご家族の想いを大切にし、日常のお世話だけでなく、家族のつながりを意識した関わりや、ケアが出来るよう努めます。(池下)

ユニット報告

桜台・雲雀丘ユニット

十二月二十五日、おやつにクリスマスケーキのデコレーションを行いました。ご利用者が職員と一緒に、クリームや真っ赤なイチゴを飾りつけていきました。ケーキを撮影した後、もちろんおいしくいただきました。みんなで作ったケーキは、やはり一味違うようです。とびっきりの笑顔でケーキをほおばる姿が印象的でした。



おやつを召し上がった後に、職員から靴下やマフラーなどのクリスマスプレゼントをお渡しすると、「あったかいわ」と喜んで頂けました。(安藤)

グループホーム

グループホームの年末年始は皆様のご家庭と同じように年の瀬になるにつれて、忙しいような、にぎやかなような雰囲気に含まれてきます。

十二月二十五日には第二回目の開

催となるクリスマス&忘年会を行いました。

普段は職員とご利用者で作る食事もこの日はかりはオードブル、握りずし、サンドイッチなどをお店から取り寄せ、豪華な会となります。職員の演奏するピアノをBGMにして、ご利用者の皆様もうっとり聴き入っていました。

年越しには年越しそばと紅白歌合戦、年明けはお雑煮、お煮しめを作ったり、ご利用者と一緒にお重箱におせちを詰めたりしました。「これは色がいいからここに入れようか?」「海者は腰が曲がるまで、と言って縁起がいいのよ」など皆様の長年の経験が光ります。

元旦には、初詣で「伊和志津神社」を参拝し、一年の幸福を願いました。

これからもグループホームでは、ご家庭での生活に近い環境作りに取り組みでいきたいと思えます。(中川)



委員会報告

サービス向上委員会

十二月の定例会議では、「サービス満足度調査」の集計結果をもとに話し合いました。

今回のアンケートでは、ご利用者の身だしなみや衣服の汚れなどについての意見を多く頂き、その事実を真摯に受け止め、改善していくように具体策の検討に努めてまいります。（まずは、おしぼりの使用方法について改善を図っています）

また、「このアンケートは入居者に対してのものなのか、入居者の家族に対してのものなのか、本人でないとかわからない項目が多い」という貴重なご指摘も頂きました。次回、これらのご意見を参考にし、ご利用者・ご家族の『思い』を伺えるような調査をしていきます。

調査の集計結果は同封いたしておりますので、ご確認の程、よろしくお願いします。（市枝）



研修委員会・感染症委員会

インフルエンザ・ノロウイルスの流行に注意しつつ、施設では十二月十二日・二十一日に「感染症防止研修」を行いました。

研修ではノロウイルス感染症が発生した場合の対処方法や処理方法、また予防法として正しい手洗いがいかに重要であるかを学びました。

菌が飛沫し、感染が拡大するといわれているノロウイルスですが、ムズ状の泡で空中への拡散を封じ込める『ノロライザーフォーム』を各ユニットに設置しました。（尾崎）

宝塚市内の病院や施設でも、感染事例が報告されています。施設内でも職員が一丸となって、菌を施設にも持ち込まないよう、また、万一発症者が出たとしても、施設内に感染が拡大しないよう努めます（都崎）

給食委員会

ユニット対抗でクリスマスケーキの「デコレーションコンテスト」を行いました。

今回初めての試みでしたが、どの

ユニットも力作ぞろいで、完成度の高いものばかり。出来上がったケーキの写真は館内に掲示し、ご利用者・ご家族・スタッフ皆さんの投票を経て、グランプリが決定しました。

グランプリ 五三票

ふじが丘すみれが丘ユニット



第二位 五〇票

青葉台・五月台ユニット（上段）

第三位 四三票

デイサービス（下段）



今後も、ご利用者が参加できる楽しい「食」のイベントを企画していきます。(尾崎)



※宝塚ちどりのブログにも掲載しています。

地域交流委員会

昨年十二月の委員会では、二月開講予定の「認知症講習会」の日程や詳細を確認し、「ちどり介護塾」の進捗状況を伝達しました。

また、一月に各ユニットで行う「初詣」レクリエーションが円滑に行えるよう、車輛と日時の調整を行いました。

二月六日には三枝尚子様をお招きし、懐メロショーを予定していますので、多数の方のご参加をお待ちしております。(岡村)



事故防止委員会

十二月の定例会議で、一年間の活動や研修内容について振り返り、来年度へ向けての重点施策や目標を話し合いました。

毎月挙がる「事故・ヒヤリ」報告

を受け、研修の内容や日程の検討や、事故報告書の活用についての方向性をどうするべきか話し合いました。

年末もちつき大会

十二月二十八日、年末恒例の「もちつき大会」を行いました。

ご利用者だけでなく、ご家族、地域のボランティアやケアマネジャー等、たくさんの方々にご参加頂きました。

前日の夜から浸水させたもち米を一時間ほど蒸籠で蒸し、事前にお湯を張って温めておいた臼に移し、皆の「よいしょ！よいしょ！」のかけ声に合わせて、搗き手と相の手がタイミングをとりながら搗きあげます。

十六キロものもち米を搗きあげるのには、さすがに体力が必要ですが、力技ではなく、コツを教わりながら、



若いスタッフも頑張りました。

最近では餅つき機を使ったり、市販のお餅を購入する機会が増え、昔ながらの方法で作ることは珍しくなりましたが、やはり手間ひまかけて作ったお餅は格別においしく、いつまでも伝承していきたいと思わせるものでした。(仲田)

内定者研修実施中

平成二十五年四月から勤務する新卒者向けの内定者研修を随時実施しています。

十二月十五日(土)には、中山ちどりにて、ユニットリーダーや新卒者と年代の近い職員が参加し、交流を図り、円滑な受入れにつなげていきます。(岡村)

編集後記

新たな一年が始まりました。ご利用者やご家族、地域の方々と共に歩み、「宝塚ちどり」も共に成長できるように精進してまいります。(北辻)

